

第3回評価委員会の主な意見

全般的な状況	・ 全般的に目的意識を持ってやっていくことが大事である。
	・ 現段階で業務実績報告書の特記事項を書き直させることは無理なので、未達成な事項に掲げられていないことについては指摘をすることとする。
	・ 課題解決のために相当量の努力をしたと思うが、全体として見たときに、名市大をどのような方向に持っていくのか、その中で一番基本的な問題がどこにあり、またそれをどこまで達成したかということについて、大変難しいことだとは思いますが、整理ができていないように思われる。
	・ 民間であれば今までやってきたことが良かったとしても最終損益が悪ければ評価されない。財務諸表ではその点も確認してみたい。
	・ 18 年度は法人への移行期であり、市立大学は法人化前からのレベルを引きずっている部分があるのかもしれないので、慎重に判断しないとイケない。
	・ 委員としては、評価を通じて市立大学が良い方向に進んで欲しいと思っているが、そのためにも業務実績報告を正確に記述し、評価委員会が判断しやすくするよう、来年度から記述態度を改めて欲しい。
	・ 計画は達成されていることでも、市立大学は法人化前の取り組みが遅れているので、評価の判断において迷ってしまう。
	・ まず大学の自己評価が前提であるが、それができていない。自己評価のシステムを確立してほしい。
財務諸表	・ 現在評価を行っている業務実績報告書をベースに事業報告書が作られており、それが適正であると会計監査人や監事から意見が出るのはおかしいのではないか。
	・ 利益処分については、我々が思っていたより大きな額である。これが全て法人で自由に使えることになるのか。
	・ 大学と病院で区分できるのか、できるのであれば病院は自己収入だけで運営できるのか判断しないとイケない。
	・ 決算報告書と財務諸表で額に違いがあるのはなぜか。